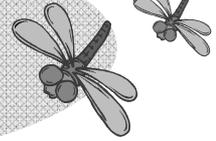




みんなの広場

会員のみなさんの日頃思っていることを
何でも結構です、お寄せ下さい。



「白黒の世界をかざれて」

宮澤勝次さん(高松地区)

日本では、虹の色は七色であると言われる。しかし、欧米では五色であると言ひ、又、アフリカでは二色だとある気象学者が話していた。自分なりの解釈では日本人は茶色の瞳をしている為に子細七色の識別が出来るのではないかと考える。

小生、前期高齢者に間もなく到達をしますが、視力障がいが発症してからかなりの経歴があると自負する。

しかし、アフリカ地帯の虹色と同様の世界を感じる様になったのは、かなりの人生経験を重ねた後であり、その経験と体験が今の自分を支えていると信じている。仕事は勿論、スポーツでは、空、山、水、氷、雪とかなりのジャンルの活動をし体得した。前述した趣味の楽しみが出来なくなり、病名が「網膜色素変性症」と診断されたが、それを受け入れるまでには、我が国の眼科のほとんどの有名教授の診察を受けてからであった。

現在の心境は、自己細胞を使った最新医学の恩恵を受けられるまで生きていられるかである。また、この応用治療技術の研究は、有名大学の研究室で「IPS細胞」を使いかなり進んでいると聞く。各種の障がい者諸氏の症例により、恩恵を受けることが出来ると思います。望みを大きく抱いて与えられた日々をすごしましょう。

「日本人の食について」

福島重信さん(平井地区)

日本人の食事は、昔からあったものを継承し、それによって活力を生み日本文化が創られてきた。日本人特有の知恵と工夫に基づいた植物性食品を食べたくましく生きてきた。しかし現在、利点を無視し欧米並みの動物性食品中心の食生活で無理が生じてきている。戦後、ガン、胆石、胆のう炎はじめ糖尿病、原因不明な病気が増えた。もっとも昔も貧しい時代、塩辛い保存食を食べ生き延びてきた民族であり、高血圧・脳血管障害などで平均寿命も短かったという経緯もある。しかし、今の若い人は高齢になっても肉類を好み、野菜嫌いでこれから先、短命の人が増えるのではないだろうか。それらを考えたとき、いかに食生活のバランス・リズムをとるかということが大切に思われる。カロリーは充分でも栄養面で栄養失調の人が多いのではないだろうか。今後は認識を新たにして食生活の見直しを真剣に取り組んでいきたいものだ。



はばたき紀行

運命の日となる予感と見合いの記筆寿祝う日ほろ苦く読む

介護受く湯舟の母は紅さして乙女の如く恥じらいて居る

会葬の群に面影の君探しているわれの心に埋み火秘ぞむ

車椅子の赤き帽子の友の唄ハスキーボイスにリボンもゆるる

清水公子

大川昭子

新野辺富美

石津初美

新会員紹介 よろしくお願ひします!

■大川昭子(てるこ・波野地区)
お誘ひ頂き有難うございます。

■石津英夫(波野地区)
カラオケを一回体験しました。先輩が居られ元気を頂き有難うございました。

■清水公子(大同東地区)
短歌とカラオケが好きな年寄りですが、お仲間に入れて頂けたら幸いです。

■小倉善一(波野地区)
自分で外に出て何かをやりたいと思ひ、陶芸をやっている事を知り、一歩ふみ出してみました。

■斎藤英司(中野西地区)
趣味は、映画鑑賞とサッカー、野球などスポーツ観戦です。

■小沼和雄(高松地区)
脳幹神経の血管が切れてから2年半が経ち、今では右半身も動くようになりました。車椅子の生活ですが、出られる行事には出たいと思ひます。

